

# 日医総研ワーキングペーパー

医薬品製造業 10 社 平成 1 1 年 3 月期決算経営分析

(決算短信 / 単独決算ベース)

No . 2 0

平成 11 年 8 月 31 日

日 医 総 研

中村十念・天瀬文彦 (内線 2 2 0 7 )

<http://www.jmari.med.or.jp>

# 医薬品製造業 10 社

## 平成 11 年 3 月期決算経営分析

### (決算短信 / 単独決算ベース)

#### はじめに

給付率の引下げ（患者負担の増大）、長引く不況等が影響して、わが国の国民医療費の伸びは鈍化傾向にある。医薬経営がますます逼迫している現況に対して、製薬メーカーのいわゆる「一人勝ち」がしばしば取り沙汰されている。

そこで、医薬品製造業 10 社の平成 10 年度収支決算をもとに財務分析を行い、実態を検証することとした。

#### 1. 概要（表 1・図 1 を参照）

昨年度まで一般管理・販売費に計上していた事業税を、今年度から法人税等として利益から差し引くように表示を変えているため今年度は過去年度に比べ、営業利益、経常利益は事業税の分だけ、かさ上げされている。今回は前年度との比較を容易にするために事業税を一般管理費に加え調整して分析した。

医薬品製造業 10 社の平成 11 年 3 月期決算は全体では売上高 2.9% 減少、経常利益 2.0% の減益で、全体としては減収減益であった。売上高の減少等の背景として、平成 10 年 4 月に実施された薬価全面改訂において、薬価全体で 9.7% の引下げが実施された影響を無視することはできない（9% 台の引下げ幅は平成 2 年以來 8 年ぶり）。大幅な薬価引下げは、薬価改定の際に基準となるいわゆる R 幅が、財革法の施行により前回の 10% から平均 3.8% という異例の縮小措置がとられたことに起因している。個別企業では、とくに三年連続の薬価引き下げの影響が出ている企業もあるようだが、全国上場企業全体が 21.1% の減益で二期連続減益となる中で、大幅な薬価引下げの影響をほとんど受けることなく、医薬品製造業の高収益が際立っている。

#### (1) 増収増益企業

10 社中で三共（売上高 0.2%、経常利益 1.5%）武田（0.3%、0.2%）中外（2.0%、5.3%）塩野義（2.4%、24.2%）の 4 社は売上高、経常利益ともに伸ばして増収増益になっている。売上高ではトップ

の塩野義でも2.4%であり、売上高の伸び悩みが目立つ。経常利益でも塩野義がトップで24.2%の増益になっている。しかし、医薬品製造業で国内最大規模の武田製薬は、6,421億円の売上で経常利益1,364億円を稼ぎ出し史上最高益を達成した。

図2の斜線は10社平均の総資本回転率（迅速性を表す指標）0.61回転を示している。斜線の上側にプロットされた企業群が、平均を上回る回転率の企業である。総資本回転率から見ると、規模が大きいかかわらずわずかに武田の方が良い。（武田0.67回、三共0.63回）

### （2）減収増益企業

田辺製薬と藤沢薬品は減収ながら増益となっている。田辺製薬は売上減、売上原価アップを、一般管理費、営業外費用の節減で補っての増益である。一方、藤沢薬品は売上減少、一般管理販売費アップを売上原価率の改善で補っての増益で対照的な内容である。

### （3）増収減益企業

第一製薬は2.3%の増収ながら1.4%の減益となっている。売上原価、一般管理販売費のアップを売上高の伸びで吸収できなかった

### （4）減収減益企業

協和発酵は減収減益ともに一桁だが、山之内製薬とエーザイは二桁の減収減益になっている。

## 2. 企業規模と収益力（表1・表2・図2・図3を参照）

### （1）企業規模（図2）

売上高と使用総資本額で企業規模をみると、武田薬品がトップで売上高6,422億円、総資本額9,670億円ある。第二位三共の売上高は武田の72%で4,635億円、総資本額は79%の7,604億円である。第三位山之内の売上高は武田の41%、総資本額は武田の72%である。上位2社で売上高の38%、総資本額の35%を占めている。二社の規模が他の8社を大きく引き離している。社員数では武田が9,139名、三共が6,914名、二社で10社全体の31%を占めている。

図2の斜線は10社平均の総資本回転率（迅速性の指標）である。斜線の上側にプロットされている企業が平均を示している企業である。武田が0.67回、三共は0.63回幾分武田が上回っている。

### （2）収益力（図3）

収益力は本来付加価値額（限界利益額）でとらえるべきだが、決算短信の情報では付加価値額をとらえることができないので、売上総利益と経常利益の額

で収益力をとらえた。武田が売上総利益 3,407 億円、経常利益 1,364 億円、三共は売上総利益 3,099 億円、経常利益 1,292 億円であり、上位 2 社で売上総利益の 38%、経常利益の 53%を占めている。前述の規模のみならず収益力でもこの二社が他を圧して力をつけている。

### 3. 成長性と収益性（表 3・図 4・図 5 を参照）

#### （1）成長性（図 4）

売上高と使用総資本額の伸びをみると売上高、使用総資本額ともに伸ばした企業は、三共、中外、塩野義、武田の 4 社である。山之内は売上高が 16.9% 減少し、使用総資本額も 3.9% 減少しているが、転換社債の償還 394 億円（総資本の 5.5%）によるものである。

#### （2）収益性（図 5）

本来企業の収益性を論じるには損益分岐点分析をしなければならないが、決算短信のデータでは損益分岐点分析はできないので、便宜的に売上総利益率と営業利益率で代用して収益性をとらえた。売上高から売上原価（工場の製造原価や他社からの仕入原価）を回収した売上総利益率（図 5 のヨコ軸）では中外製薬が 69.1%、山之内製薬が 68.9%、三共が 66.8% という高い収益性を維持している。売上高（規模）で第 2 位の三共の高い収益性が目立つ。協和発酵の売上総利益率が 34.6% と低いのは、売上高に占める医薬品の比率が 49% と医薬品以外の利益率の低い分野の売上が 50% を超えているためである。

10 社の売上総利益率は総平均で 58.1% だが協和発酵を除く 9 社で平均すると 61% になる。ここでも医薬品の利益率の高さがうかがえる。

売上総利益から一般管理・販売費（研究開発費はここに含まれる）を回収した残りの営業利益の比率（図 5 タテ軸）では、三共の 27.5% が群を抜いている。山之内 21.2% 武田 20.8% である。売上総利益率では 53.1% で協和発酵について低かった武田が営業利益率では上位にきている。これは売上高が大きくなることで、固定費である一般管理販売費の効率が良くなるからである。

売上高に占める一般管理費販売費の比率は 10 社平均で 41.3%、武田は 32.3% である。ちなみに大蔵省が調査刊行している平成 9 年度の法人企業統計（以後法人企業統計）によると一年のずれがあるものの、営業利益率は製造業平均 3.5%、化学工業（資本金 10 億円以上 365 社）の平均が 7.3% である。医薬品製造業の非常に高い利益体質の一つの証明である。

項目	医薬品10社平均	製造業平均	化学工業平均
売上総利益率	58.1%	21.8%	34.7%
営業利益率	16.8%	3.5%	7.3%

(注1)製造業平均 化学工業平均は平成9年度法人企業統計年報から引用した  
したがって医薬品10社とは一年のずれがある。

(注2)化学工業平均は資本金10億円以上365社平均

#### 4. 生産性 (表3・図6・図7・図8を参照)

一人当たり売上高 (図6) は10社平均で56.2百万円、売上高、社員数ともに規模の大きい武田、三共の一人当たり売上高が大きい。過去の通念では「規模の拡大に伴って生産性が低くなる」であったが、武田と三共にはその通念が通用しない。

本来生産性は一人当たり付加価値 (限界利益) で計るべきだが、データがないのでここでは営業利益で代用した。一人当たり営業利益 (図7) では三共が18.5百万円で第2位の武田14.6百万円を3.9百万円上回っている。仮に三共がこの生産性を維持して武田の規模になるとすれば、営業利益は32.5% (414億円) 増の1,690億円になる。武田が三共並の生産性を確保するためには、計算上1,935名の人員削減が必要になる。三共の生産性がいかに高いかがうかがえる。

営業利益から営業外収支を引いた経常利益を一人当たりで見ると10社の平均は9.7百万円、三共は18.7百万円、武田、山之内は14.9百万円である。ちなみに自動車産業トップのトヨタは8.5百万円、常に新しい経営手法で話題のソニーは2.2百万円、ガリバーキリンの寡占を切り崩して話題のアサヒビールでも11.8百万円である。10社平均が9.7百万円である医薬品製造業の生産性の高さがここにも表れている。

#### 5. 財務の安全性 (表2・表3・図9・図10を参照)

##### (1) 手元流動性と当座比率 (図9)

即時の支払余力 (手元流動性) を示している現・預金の残高は、製造業平均1.72ヶ月、化学工業 (資本金10億円以上365社) 平均2.64ヶ月である。医薬品10社平均は6.06ヶ月で3.42ヶ月ほど化学工業平均より余裕がある。武田8.55ヶ月、第一製薬7.37ヶ月、三共7.23ヶ月、山ノ内6.67ヶ月、エーザイ6.62ヶ月と各社手厚い手元流動性を確保し

ている。

当座比率は100%を超えたら優良といわれているが、協和発酵の98.5%を除いてすべて100%を超えており、医薬品メーカーの余裕のあるところを示している。協和発酵を除く9社の平均は、284.7%である。製造業では91.0%、化学工業（資本金10億円以上365社）平均114.2%である。

エーザイは当座比率では423.3%で武田の366.0%を上回っているが、手元流動性では6.62ヶ月で武田の8.55ヶ月を下回っている。この原因は売上債権の滞留にある。武田は3.26ヶ月の売上債権だが、エーザイは5.51ヶ月も滞留している。エーザイが武田と同等の回収率を達成すれば手元流動性は8.87ヶ月になり武田を上回る手元流動性を保持することになる。10社平均の売上債権回転期間は4.09ヶ月である。全産業平均では20.1ヶ月、化学工業（資本金10億円以上365社）平均3.49ヶ月である。

項目	医薬品10社平均	製造業平均	化学工業平均
手元流動性	6.06ヶ月	1.71ヶ月	2.64ヶ月
当座比率	254.1%	91.0%	114.2%

(注1) 製造業平均 化学工業平均は平成9年度法人 企業統計年報から引用した  
したがって医薬品10社とは一年のずれがある。

(注2) 化学工業平均は資本金10億円以上365社平均

## (2) 借入金依存度と固定長期適合比率 (図10)

中長期の財務安全性を示す借入金依存度、固定長期適合比率を見れば、企業の財務構造の善し悪しがよくわかる。借入金依存度（図10タテ軸）は総資本に占める有利子負債の割合で、武田は有利子負債ゼロ無借金経営になっている。医薬品業界で武田の強さの一面がここにもでていいる。10社平均では8.3%最も悪い中外でも25.0%である。製造業平均では33.1%、化学工業（資本金10億円以上365社）の平均は58.8%である。

運転資金の余裕をどれだけ長期の資本で確保しているかを示す固定長期適合比率（図10ヨコ軸）は10社平均47.6%、製造業平均78.9%、化学工業（資本金10億円以上365社）平均は71.0%である。無借金経営の武田は33.3%この比率が最も悪い山之内でも化学工業の平均並みの70.0%である。70%はけっしてよい数値ではないが、山之内は借入金依存度が

5%と低いので長期借入金を導入してこの比率を改善することもできる。図10の第 象限の方角へシフトすることである。

項 目	医薬品10社平均	製造業平均	化学工業平均
借入金依存度	8.3%	33.1%	58.8%
固定長期適合比率	47.6%	78.9%	71.0%

(注1) 製造業平均 化学工業平均は平成9年度法人 企業統計 年報 から引用した。  
したがって医薬品10社とは一年のずれがある。

(注2) 化学工業平均は資本金10億円以上365社平均

## 6. 経営効率 (表3・図11・図12を参照)

### (1) 総資本利益率 (図11)

総資本利益率は経営の迅速性を表す総資本回転率(売上高÷総資本)と、収益性を表す売上高利益率の掛け算である。したがって総資本利益率を向上させるには、総資本回転率を上げる、売上高利益率を高めるという二つの方向がある。図11ではタテ軸に総資本回転率、ヨコ軸に売上高利益率をとった。総資本利益率の高い会社が右上の第 象限に集まる。ここにも三共と武田がプロットされている。売上高、社員数、総資本等規模で10社中第一位の武田が総資本回転率0.67回と、協和発酵、田辺に次いで塩野義とともに第三位に位置している。規模と迅速性を伴って成長している姿が見える。三共は0.63回と回転率(タテ軸)は幾分低い。

しかし、ヨコ軸の売上高利益率では14.7%で、武田の10.9%を3.8%上回っている。総資本回転率と売上高利益率の掛け算である総資本利益率では三共が9.2%でトップを確保し、武田が7.3%と続いている。売上高利益率が11.0%と三共について高い山之内は総資本回転率が0.38回と低いために、総資本利益率では4.1%と低くなっている。今後資本、資産等財務構造の改善による総資本回転率の向上が求められよう。

製造業平均の総資本回転率は1.06回、化学工業(資本金10億円以上365社)平均0.77回転である。売上高利益率は製造業平均1.34%化学工業平均3.17%、総資本利益率は製造業平均1.43%、化学工業平均2.44%である。医薬品製造10社の経営効率の良さが目立つ。

項目	医薬品10社平均	製造業平均	化学工業平均
総資本回転率	0.61回	1.06回	0.77回
売上高利益率	8.6%	1.34%	3.17%
総資本利益率	5.2%	1.43%	2.44%

(注1)製造業平均 化学工業平均は平成9年度法人企業統計年報から引用した  
したがって医薬品10社とは一年のずれがある。

(注2)化学工業平均は資本金10億円以上365社平均

## (2) 株主資本利益率 (図12)

経済の国際化に伴い会計基準を国際会計基準に統一する動きが急ピッチです  
すすんでいる。連結キャッシュフロー計算書の開示などもその流れのひとつであ  
る。またこれまで長い間自己資本と定義をして会社(社員)のものと信じて疑  
わなかった資本も実は株主から預かった株主のものであるとして、自己資本を  
株主資本と再定義をするようになってきた。株主資本の時代の幕開けである。  
今後日本版401Kなど株式や債権での運用が盛んになり、機関投資家が年金  
基金などの運用成績に真剣に取り組まざるを得なくなって積極的に発言をする  
ようになっていく。そこで株主資本利益率が新たな経営効率の指標として登場  
した。株主資本利益率を意識すると、企業にとって株主資本も限りなく負債に  
近い存在になっていく。配当も資金コストとして借入金の利息に近い存在にな  
ってくる。

株主資本利益率は総資本利益率を株主資本(自己資本)比率で除したもので  
あるから、株主資本利益率を向上させるためには、総資本利益率の向上と株主  
資本比率の低下が必要になる。株主資本比率を下げるなどということは、自己  
資本と呼んだ時代には考えられなかった方向である。

図12ではタテ軸に総資本利益率、ヨコ軸に株主資本比率を取った。左上の  
第 象限が株主資本利益率志向の目指すところである。図11で右上の第 象  
限を目指し、次いで図12で第 象限を目指すというステップになろう。総資  
本利益率で武田を1.9%上回った三共が、株主資本比率に差が無いので株主  
資本利益率でも、13.6%と、武田の上をいって10社中第1位になっている  
。武田の株主資本利益率は10.8%でこの2社が他社を大きく引き離して  
いる。

図12の下の第 象限、第 象限にプロットされた企業の株主資本利益率を  
左から順にみると、山之内5.7%、エーザイ5.7%、中外5.6%、協和  
発酵5.9%と株主資本利益率5%台の企業が並んでいる。同じ5%台でも株  
主資本比率は山之内75.8%、エーザイ74.0%、中外51.1%、協和

発酵 41.0%である。総資本利益率では2.6%と最低の経営効率である協和発酵が株主資本利益率では第5位にはいることになる。財務の安全性のみを考えて時価発行など資本市場でひたすら自己資本を増殖してきた日本企業もこれからは企業にとっては株主資本という名の他人資本であると考えて借入金とのバランスを計っていく必要がある。自己の安全のために資本市場から資金を調達するのではなく、あくまで高収益高成長を目指すための資金調達の場であることを株式市場は求めてくるであろう。

項目	医薬品10社平均	製造業平均	化学工業平均
総資本回転率	0.61回	1.06回	0.77回
売上高利益率	8.6%	1.34%	3.17%
株主資本比率	66.9%	34.9%	45.9%
株主資本利益率	8.0%	4.1%	5.3%

(注1) 製造業平均 化学工業平均は平成9年度法人企業統計年報から引用した。  
したがって医薬品10社とは一年のずれがある。

(注2) 化学工業平均は資本金10億円以上365社平均

## 7. 国際化 (表1・図13を参照)

ヨコ軸に連結売上高、タテ軸に海外売上高を取り、国際化の進展度合を示した。斜線は10社平均18.8%のラインで右上にプロットされた企業が平均以上に進んでいる企業である。山之内の41.0%、藤沢37.4%、エーザイ24.5%の三社が平均を上回っている。塩野義は10%未満で連結決算報告にも開示されておらず、国際化が著しく遅れている。規模、収益力、収益性等武田に次ぐ力を持っている三共は14.5%と国際化には大きく遅れを取っている。

## まとめ

わが国が戦後未曾有の経済不況に喘ぎ、各業界が壮絶な合理化策などにより難局を乗り越えようとしている中、医薬品製造業は他の業種に比べて極めて高い収益性を保っている。その中でも、とくに武田、三共の健闘ぶりが際立っている。

営利法人が適正な経済活動によって、高収益を上げることは何ら批判されることではない。しかし、製薬企業の場合、医療用医薬品の単価が実質的に「薬価基準」という公定価格に守られ、そこに医療保険という極めて公共的意味合

いの強いファンドが年間7～8兆円規模で投入されている。このような背景の下に収益性の高さを誇っていることを考えると、医療産業の中での他の業種(医療機関、老人保健施設、訪問看護ステーション等)とのバランスなどを考慮した対応が必要であろう。

< 研究協力者 >

明 賀 義 輝 ((株)経営総合研究所)

<http://www.jmari.med.or.jp>

1999年3月期損益計算書(決算短信/単独決算)

(注)事業税を法人税等から除き、一般管理費に加えて表示して金額単位億円

<表1>

決算期 企業名		1999年3月	1999年3月	1999年3月	1999年3月	1999年3月	1999年3月	1999年3月	1999年3月	1999年3月	1999年3月	1999年3月		
		三共 金額	武田 金額	山之内 金額	第一製薬 金額	田辺製薬 金額	藤沢薬品 金額	中外製薬 金額	エーザイ 金額	塩野義 金額	協和発酵 金額	合計 金額		
経常 損益	売上高	4,635.4	6,421.9	2,641.4	2,379.7	1,811.0	2,016.5	1,674.3	2,302.9	2,167.5	3,232.3	29,282.8		
	売上原価	1,536.7	3,014.8	821.3	882.7	847.0	745.4	517.8	778.0	1,013.7	2,115.5	12,272.7		
	売上総利益	3,098.7	3,407.1	1,820.1	1,497.0	964.0	1,271.1	1,156.5	1,524.9	1,153.8	1,116.8	17,010.1		
	一般管理費計	1,822.0	2,074.4	1,260.0	1,101.3	805.8	1,034.2	950.8	1,179.1	962.5	907.6	12,097.6		
	営業利益	1,276.7	1,332.7	560.1	395.7	158.2	236.9	205.7	345.9	191.3	209.3	4,912.5		
	営業外収支	-15.6	-31.6	-17.4	-6.3	-5.3	-13.2	-5.7	-14.0	-45.9	14.5	-140.5		
経常利益		1,292.3	1,364.3	577.5	402.0	163.6	250.1	211.4	359.9	237.2	194.8	5,053.0		
税引 前利益	特別 利益	固定資産売却益	0.8	0.0	0.0	0.4	0.1	8.3	0.0	3.9	0.0	37.5	51.0	
		貸倒引当金戻入額	0.0	0.0	4.5	0.5	0.9	1.0	0.0	2.0	0.0	1.2	10.1	
		その他	26.7	0.0	2.6	0.0	5.2	75.0	0.0	0.0	0.0	4.4	113.9	
		特別 損失	固定資産売却・除却損	8.4	0.0	1.3	8.1	0.0	0.0	0.0	3.0	2.5	0.0	23.2
			製商品関連	0.7	0.0	11.5	0.0	0.0	0.0	0.0	28.1	0.0	0.0	40.2
			その他	21.5	0.0	20.8	0.0	78.6	0.0	24.3	0.0	22.4	57.7	225.3
	特別損失計	-3.1	0.0	-26.4	-7.2	-72.5	84.3	-24.3	-25.1	-24.9	-24.9	-14.7	-113.8	
	当期利益	1,289.2	1,364.3	551.1	394.8	91.1	334.4	187.1	334.7	212.3	180.2	4,939.2		
前期末処理損失	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
当期税引き前利益		1,289.2	1,364.3	551.1	394.8	91.1	334.4	187.1	334.7	212.3	180.2	4,939.2		
法人税等		609.7	665.0	260.8	192.3	66.9	159.6	104.9	159.1	115.2	85.3	2,418.8		
税引後利益(当期純利益)		679.5	699.3	290.3	202.5	24.2	174.8	82.2	175.6	97.1	94.9	2,520.4		
未 処 分 利 益	前期繰越利益	69.0	317.3	56.5	153.5	77.9	16.2	39.3	50.6	28.5	119.3	928.1		
	過年度税効果調整	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	485.9	0.0	0.0	0.0	0.0	485.9		
	中間配当	56.2	113.4	33.9	24.9	9.0	12.0	14.2	29.6	13.2	16.6	323.0		
	利益準備金積立て	5.6	11.3	3.4	2.5	0.9	1.2	1.4	3.0	0.0	0.0	29.3		
	その他	0.0	0.0	0.0	93.4	0.0	0.0	0.0	-14.7	0.0	70.9	149.6		
	当期末処分利益	686.6	891.9	309.5	235.2	92.2	663.7	105.9	208.3	112.4	126.7	3,432.4		
利益 処分 案	配当・役員賞与	69.0	146.4	46.1	26.0	9.7	20.8	14.8	35.1	17.5	17.1	402.5		
	利益準備金へ	6.9	14.6	4.6	2.6	1.0	2.1	1.5	3.6	0.0	0.0	36.9		
	任意積立金へ	538.9	340.1	189.9	49.2	-0.8	621.2	50.0	110.7	61.6	25.7	1,986.5		
	次期繰り越し	71.8	390.8	68.9	157.4	82.3	19.6	39.6	58.9	33.3	83.9	1,006.5		
社員数		6,914	9,139	3,866	3,945	4,138	5,141	3,644	4,313	5,979	5,044	52,123		

(注)その他の93.4億円は  
自己株式消却

(注)その他の14.7億円は  
子会社合併引継未処分利益

事業税の表記	171.0	0.0	70.2	52.0	6.7	0.2	27.4	30.1	16.0	7.7	381.3
修正前営業利益	1,447.7	1,332.7	630.3	447.7	164.9	237.1	233.1	376.0	207.3	217.0	5,293.8
修正前経常利益	1,463.3	1,364.3	647.7	454.0	170.3	250.3	238.8	390.0	253.2	202.5	5,434.3
修正前一般管理費	1,651.01	2,074.41	1,189.77	1,049.3	799.08	1,034	923.42	1,148.98	946.47	899.86	11,716.3
修正前法人税等	780.7	665	331	244.3	73.6	159.8	132.3	189.2	131.2	93	2,800.1

連結売上	6,169.4	8,446.4	4,232.2	2,873.5	1,905.6	2,772.8	1,895.6	2,848.6	3,721.67	3,846.71	38,712.46
海外売上計	894.8	1,752.6	1,734.1	445.9	275.2	1,037.2	220.5	697.29	0	510.3	7,292.78
海外比率	14.5	20.7	41.0	15.5	14.4	37.4	11.6	24.5	0.0	13.3	18.8
単独比率	75.1	76.0	62.4	82.8	95.0	72.7	88.3	80.8	58.2	84.0	75.6

## 1999年3月期貸借対照表(決算短信/単独決算)

&lt;表2&gt;

企業名 借方勘定科目		1999年3月	1999年3月	1999年3月	1999年3月	1999年3月	1999年3月	1999年3月	1999年3月	1999年3月	1999年3月	1999年3月		
		三共 金額	武田 金額	山之内 金額	第一製薬 金額	田辺製薬 金額	藤沢薬品 金額	中外製薬 金額	エーザイ 金額	塩野義 金額	協和発酵 金額	合計 金額		
総 資 産	流動	現預金(1)	2,792.9	4,577.7	1,468.2	1,461.6	347.3	869.2	718.4	1,270.5	903.2	375.7	14,784.7	
		現預金(2)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
		受取手形	695.1	407.8	102.6	200.6	160.9	83.5	161.2	191.1	197.6	387.6	2,587.9	
		売掛金	827.8	1,335.2	673.4	608.6	494.4	618.5	438.8	866.5	705.1	814.6	7,382.9	
		当座資産計	4,315.8	6,320.6	2,244.2	2,270.8	1,002.7	1,571.3	1,318.3	2,328.1	1,805.9	1,577.8	24,755.5	
		商品	0.0	0.0	0.0	0.0	43.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	43.3	
		製品	296.7	314.1	101.4	228.6	72.0	153.8	122.6	98.9	180.7	282.8	1,851.6	
		仕掛品	341.4	306.8	64.8	71.7	83.0	84.2	74.3	86.2	175.1	99.0	1,386.5	
		材料	109.7	106.4	37.9	59.7	36.9	37.5	14.4	45.6	88.5	56.5	593.0	
		直接原価調整(製品)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
		直接原価調整(仕掛品)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
		棚卸資産計	747.7	727.2	204.1	360.0	235.2	275.5	211.3	230.7	444.4	438.4	3,874.5	
		その他流動資産	92.5	43.7	299.9	319.0	24.1	364.8	122.0	52.2	54.9	363.3	1,736.4	
		流動資産計	5,156.1	7,091.5	2,748.2	2,949.8	1,262.0	2,211.5	1,651.6	2,611.0	2,305.2	2,379.4	30,366.3	
		固定資産	償却固定資産	2,954.3	4,449.8	1,353.3	1,637.3	1,332.0	1,607.2	1,412.2	1,784.6	1,789.6	2,254.2	20,574.5
			減価償却引当金	-1,645.7	-3,203.3	-823.9	-992.4	-891.2	-1,114.7	-837.2	-1,170.4	-1,335.0	-1,573.4	-13,587.1
			土地	177.5	248.1	139.4	70.6	185.4	100.1	101.4	105.2	95.7	96.6	1,320.0
			有形固定資産計	1,486.1	1,494.6	668.9	715.5	626.2	592.6	676.4	719.4	550.3	777.4	8,307.3
			無形固定資産	8.4	3.8	272.1	12.4	31.7	1.6	22.0	5.2	2.2	3.3	362.5
		投資等	953.6	1,080.0	3,192.4	503.2	469.6	1,186.0	579.6	918.8	421.1	759.4	10,063.5	
		繰延資産・その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9		
		固定資産計	2,448.0	2,578.4	4,133.3	1,231.0	1,128.4	1,780.2	1,278.0	1,643.4	973.5	1,540.1	18,734.2	
		総資産計	7,604.1	9,669.9	6,881.6	4,180.8	2,390.4	3,991.7	2,929.6	4,254.3	3,278.7	3,919.5	49,100.6	
貸方勘定科目		金額	金額	金額	金額	金額	金額	金額	金額	金額	金額	金額		
負 債 及 び 資 本	流動	支払手形	302.3	2.4	88.0	7.7	11.4	0.1	25.9	9.3	86.0	78.0	611.0	
		買掛金	380.9	731.3	176.0	192.5	187.8	135.0	73.9	80.1	105.2	315.0	2,377.6	
		未払金	80.7	502.0	170.7	137.2	156.0	204.4	90.3	23.8	47.1	274.4	1,686.5	
		未払い法人税等	367.3	332.8	156.8	126.2	37.6	0.5	93.2	143.4	64.7	30.3	1,353.0	
		その他流動負債	321.9	369.1	383.7	213.3	91.5	114.9	282.3	293.3	188.3	717.3	2,975.7	
		短期借入金	113.6	0.0	4.0	58.9	153.3	87.4	33.1	0.0	100.9	187.0	738.1	
		流動負債計	1,566.6	1,937.6	979.2	735.8	637.6	542.4	598.6	550.0	592.1	1,602.0	9,741.9	
		固定	社債・転換社債	272.1	0.0	340.5	299.9	220.0	259.4	694.7	255.5	200.0	550.0	3,092.0
			長期借入金	3.0	0.0	1.0	0.8	65.8	134.5	3.3	10.0	7.7	3.4	229.4
			その他固定負債	502.8	879.2	345.5	169.6	107.1	409.7	135.6	288.9	214.1	155.5	3,208.0
		固定負債計	777.8	879.2	687.0	470.3	392.9	803.6	833.5	554.4	421.8	708.8	6,529.4	
	資本	資本金	552.0	635.4	800.7	302.6	342.5	314.9	211.9	448.5	212.8	267.5	4,088.8	
		資本準備金	532.9	496.4	940.0	339.9	380.5	501.3	316.1	550.9	202.3	431.8	4,692.0	
		利益準備金等	102.5	142.5	80.9	60.8	46.7	54.7	41.3	61.9	53.2	66.9	711.2	
		任意積立金	3,385.8	4,686.9	3,084.2	2,035.1	498.1	1,111.2	822.2	1,880.2	1,684.1	715.9	19,903.7	
		未処分利益 (直接原価調整)	686.6	891.9	309.7	236.3	92.2	663.7	105.9	208.3	112.4	126.7	3,433.7	
		その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
		自己資本計	5,259.8	6,853.1	5,215.4	2,974.7	1,359.9	2,645.7	1,497.5	3,149.9	2,264.8	1,608.7	32,829.4	
		固定資本計	6,037.6	7,732.3	5,902.4	3,445.0	1,752.8	3,449.3	2,331.0	3,704.3	2,686.6	2,317.5	39,358.7	
		総資本計	7,604.2	9,669.9	6,881.6	4,180.8	2,390.4	3,991.7	2,929.6	4,254.3	3,278.6	3,919.5	49,100.6	

1999年3月期

## 医薬品製造業10社の経営指標(決算短信ベース/単独決算ベース)

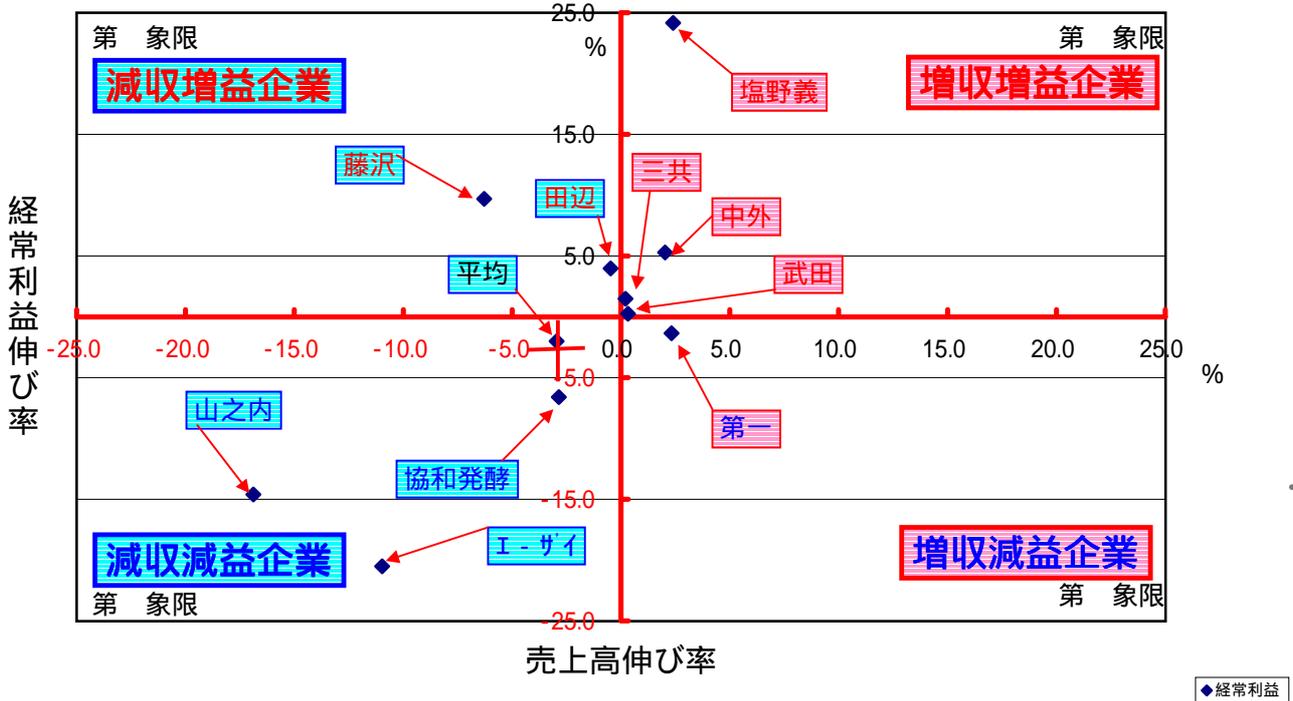
&lt;表3&gt;

会社名	大項目	小項目	単位	三共	武田	山之内	第一製薬	田辺製薬	藤沢薬品	中外製薬	エーザイ	塩野義	協和発酵	総平均
収益性分析		売上総利益率	%	66.8	53.1	68.9	62.9	53.2	63.0	69.1	66.2	53.2	34.6	58.1
		売上営業利益率	%	27.5	20.8	21.2	16.6	8.7	11.7	12.3	15.0	8.8	6.5	16.8
		売上経常利益率	%	27.9	21.2	21.9	16.9	9.0	12.4	12.6	15.6	10.9	6.0	17.3
		売上高利益率	%	14.7	10.9	11.0	8.5	1.3	8.7	4.9	7.6	4.5	2.9	8.6
財務分析		手元流動性(1)	億円	2,793	4,578	1,468	1,462	347	869	718	1,271	903	376	14,785
		手元流動性(2)	月数	7.23	8.55	6.67	7.37	2.30	5.17	5.15	6.62	5.00	1.39	6.06
		固定資金余裕(1)	億円	3,590	5,154	1,769	2,214	624	1,669	1,053	2,061	1,713	777	20,624
		固定資金余裕(2)	月数	9.29	9.63	8.04	11.16	4.14	9.93	7.55	10.74	9.48	2.89	8.45
		当座比率	%	275.5	326.2	229.2	308.6	157.3	289.7	220.2	423.3	305.0	98.5	254.1
		流動比率	%	329.1	366.0	280.7	400.9	197.9	407.7	275.9	474.7	389.3	148.5	311.7
		固定長期適合比率	%	40.5	33.3	70.0	35.7	64.4	51.6	54.8	44.4	36.2	66.5	47.6
		借入金依存度	%	5.1	0.0	5.0	8.6	18.4	12.1	25.0	6.2	9.4	18.9	8.3
	自己資本比率	%	69.2	70.9	75.8	71.2	56.9	66.3	51.1	74.0	69.1	41.0	66.9	
総合評価		総資本回転率	回	0.63	0.67	0.38	0.56	0.76	0.54	0.58	0.55	0.67	0.88	0.61
		総資本利益率	%	9.2	7.3	4.1	4.8	1.0	4.7	2.9	4.2	3.0	2.6	5.2
		株主資本利益率	%	13.6	10.8	5.7	6.9	1.8	7.5	5.6	5.7	4.4	5.9	8.0
成長性 (前年伸び率)		売上高	%	0.2	0.3	-16.9	2.3	-0.5	-6.3	2.0	-11.0	2.4	-2.9	-2.9
		売上総利益	%	3.4	1.1	-5.6	0.5	-2.2	6.1	2.7	-11.7	1.6	-6.5	-0.8
		営業利益	%	1.4	8.3	-16.6	-6.1	-2.1	19.9	19.6	-24.2	24.0	-3.5	-0.6
		経常利益	%	1.5	0.2	-14.6	-1.4	4.0	9.7	5.3	-20.5	24.2	-6.6	-2.0
		税引後利益	%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		総資本額	%	6.6	2.4	-3.9	-3.8	1.8	13.5	4.1	3.2	2.3	13.2	3.3
生産性 (一人当たり)		一人当たり売上	百万円	67.0	70.3	68.3	60.3	43.8	39.2	45.9	53.4	36.3	64.1	56.2
		一人当たり営業利益	百万円	18.5	14.6	14.5	10.0	3.8	4.6	5.6	8.0	3.2	4.1	9.4
		一人当たり経常利益	百万円	18.7	14.9	14.9	10.2	4.0	4.9	5.8	8.3	4.0	3.9	9.7
		一人当たり税引後利益	百万円	9.8	7.7	7.5	5.1	0.6	3.4	2.3	4.1	1.6	1.9	4.8
	社員数	人	6,914	9,139	3,866	3,945	4,138	5,141	3,644	4,313	5,979	5,044	52,123	

(注1)収益性分析の営業利益率、経常利益率は事業税の表記を法人税等から除き、一般管理費に加えた利益で算出した  
(注2)成長性の営業利益成長率、経常利益成長率も注1と同様に事業税の表記を一般管理費に加えた利益で算出した。

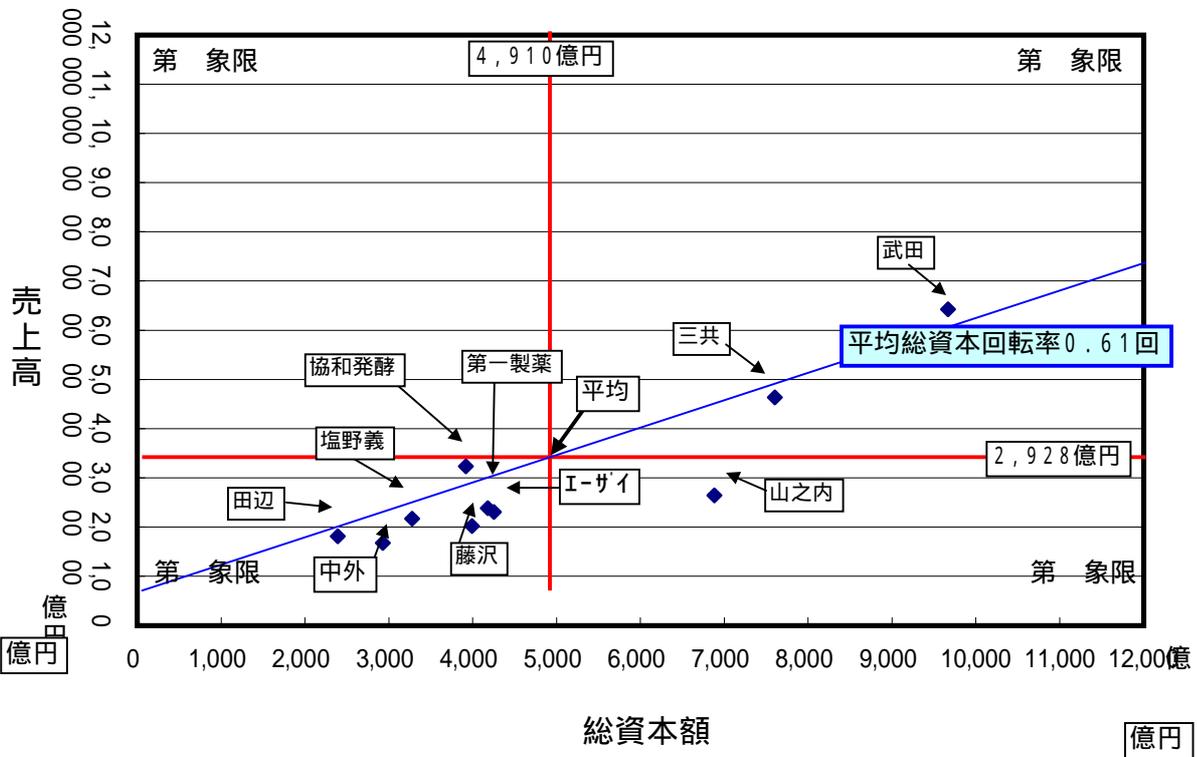
# 概要 / 売上高 & 経常利益

< 図1 >



# 規模 / 売上高 & 総資本

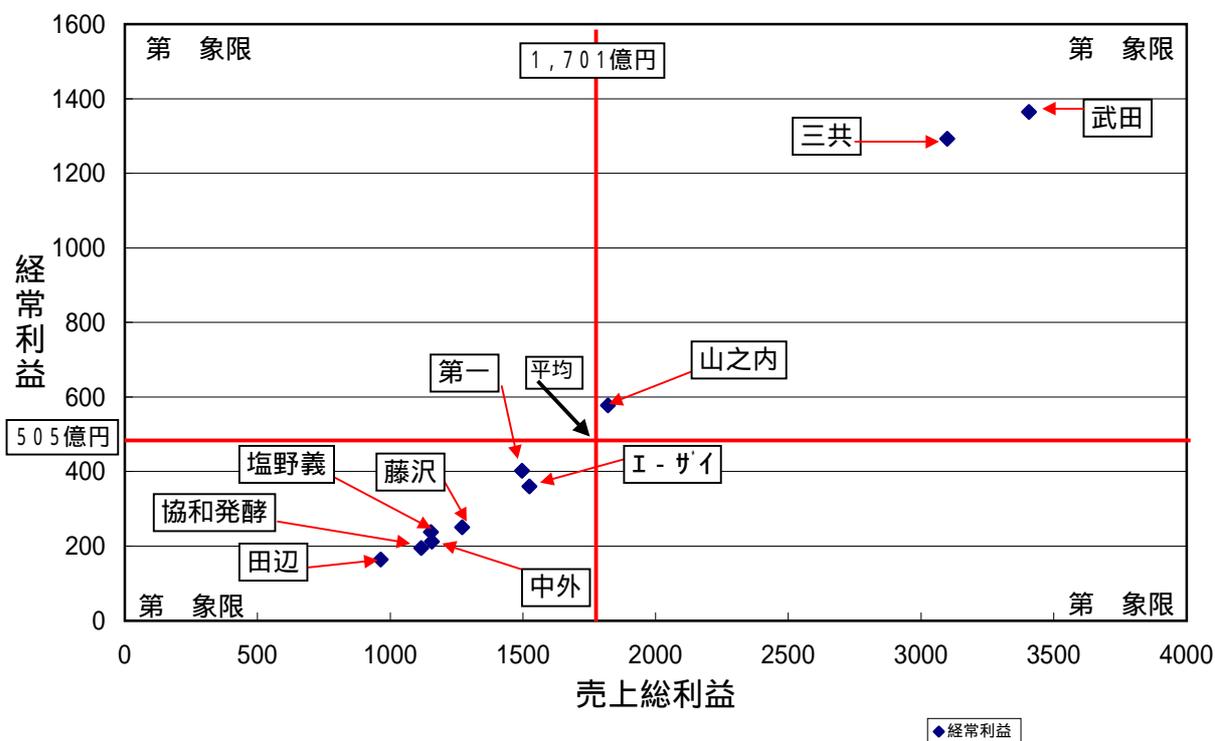
< 図2 >



http://www.jmari.med.or.jp

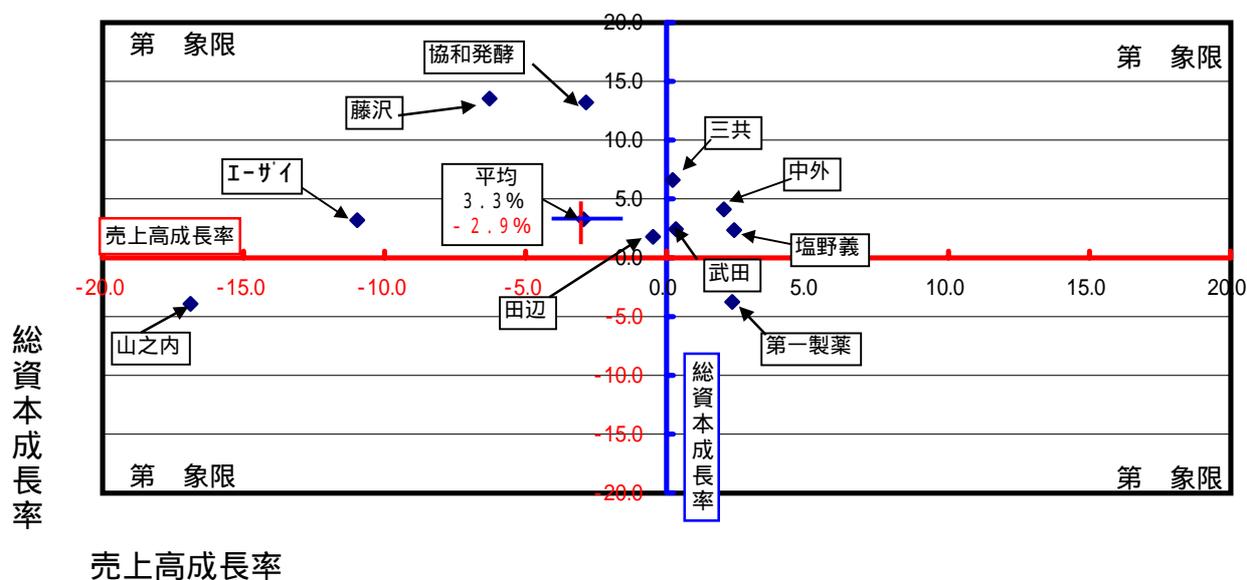
## 収益力 / 売上総利益と経常利益

< 図3 >

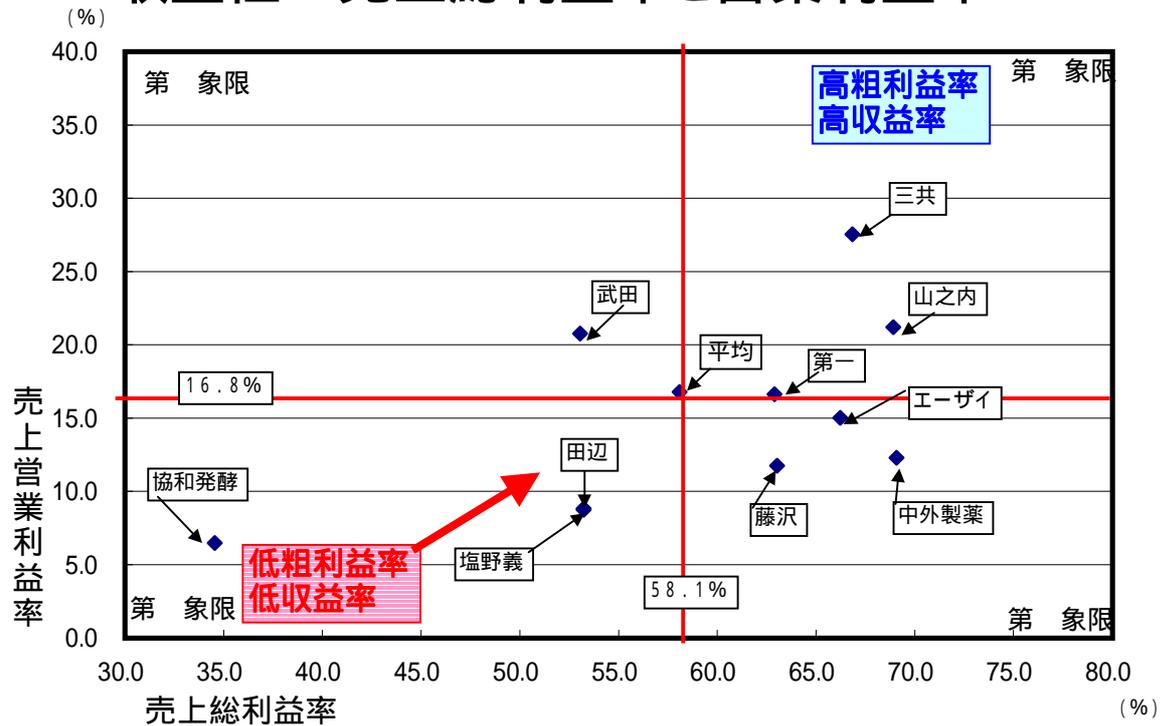


## 成長性 / 売上高と総資本

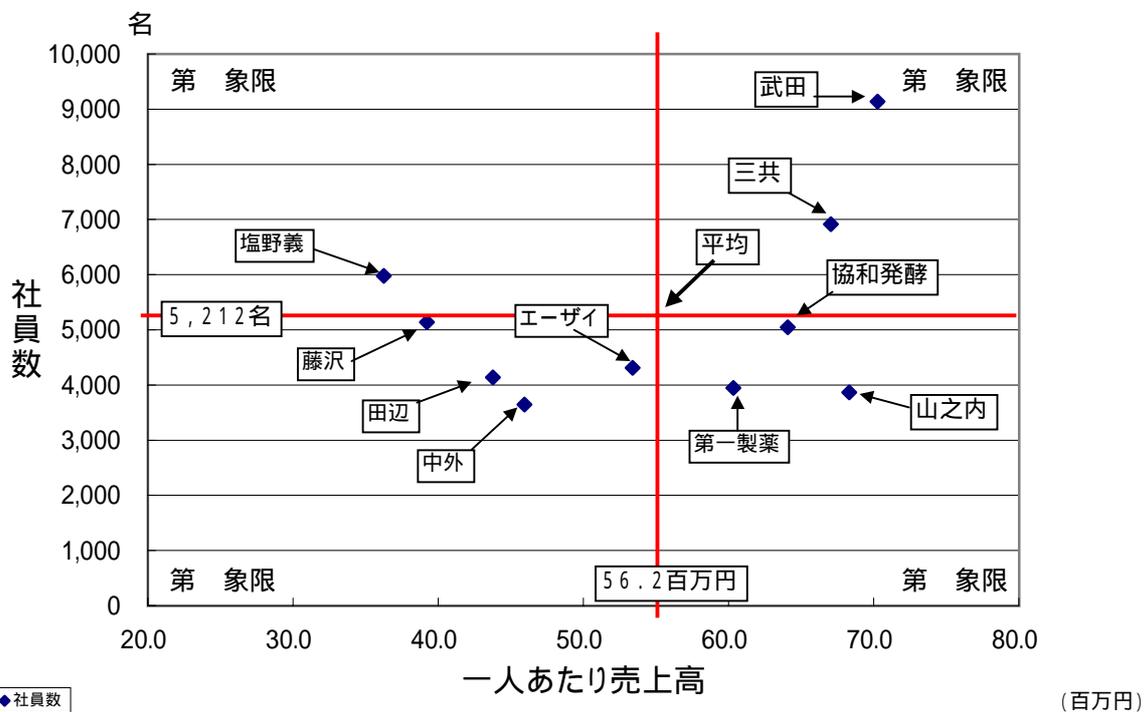
< 図4 >



## 収益性 / 売上総利益率と営業利益率 < 図5 >

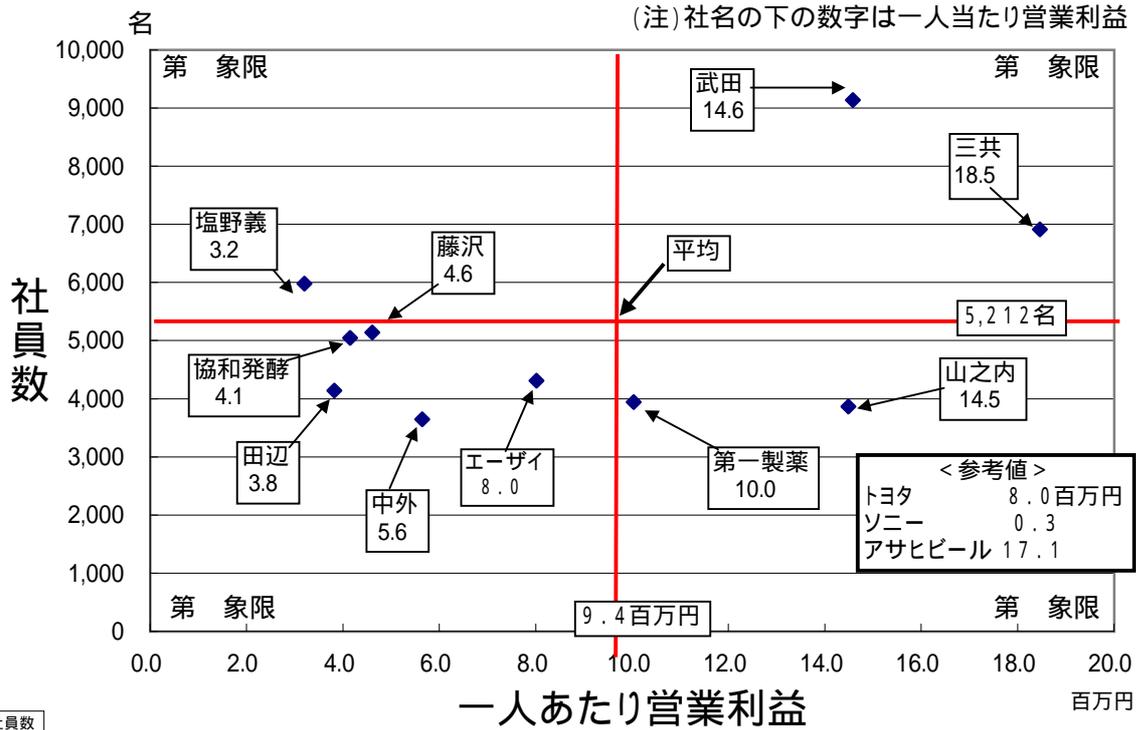


## 生産性 / 一人あたり売上高



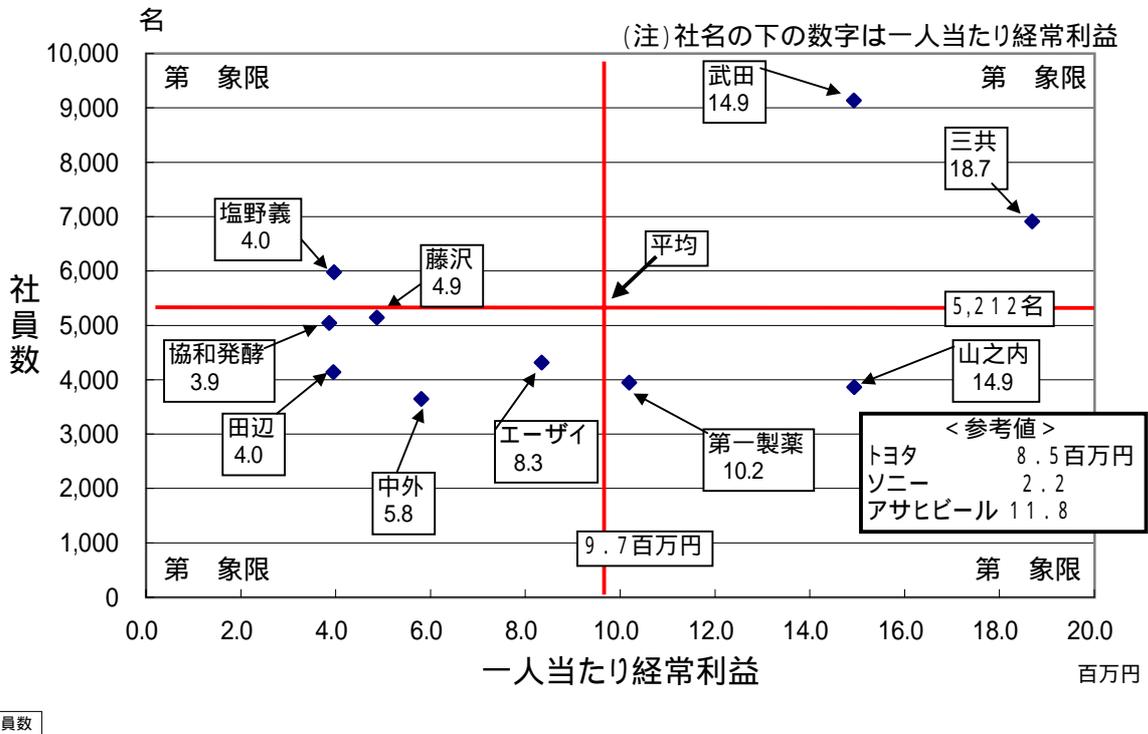
## 生産性 / 一人あたり営業利益

< 図7 >



## 社員数 / 一人あたり経常利益

< 図8 >

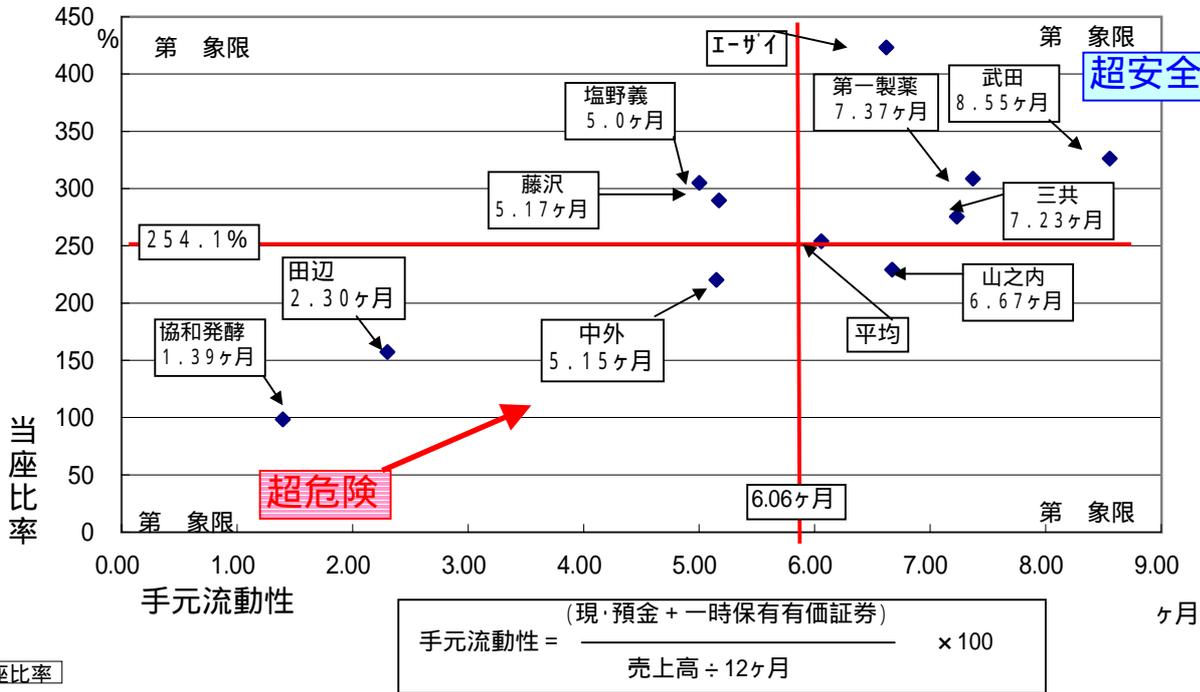


< 図 9 >

$$\text{当座比率} = \frac{\text{当座資産}}{\text{流動負債}} \times 100$$

### 手元流動性と当座比率

(注) 社名の下は手元流動性

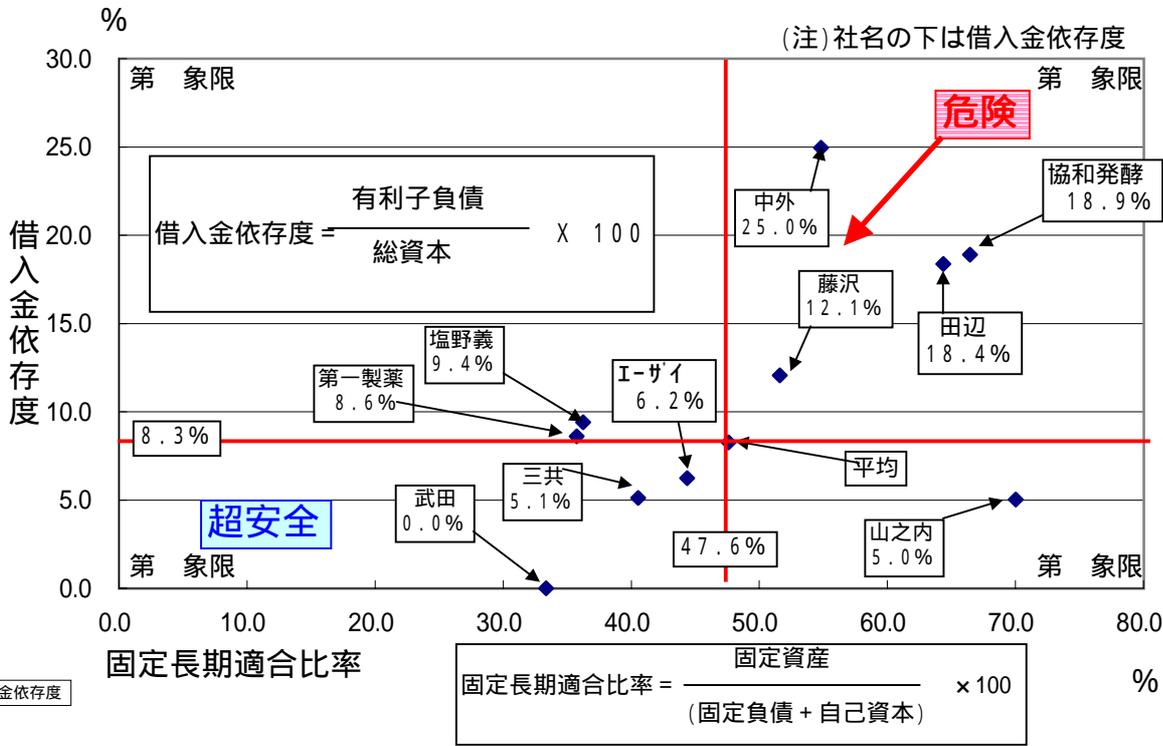


$$\text{手元流動性} = \frac{\text{現・預金} + \text{一時保有有価証券}}{\text{売上高} \div 12 \text{ヶ月}} \times 100$$

< 図 10 >

### 借入金依存度と固定長期適合比率

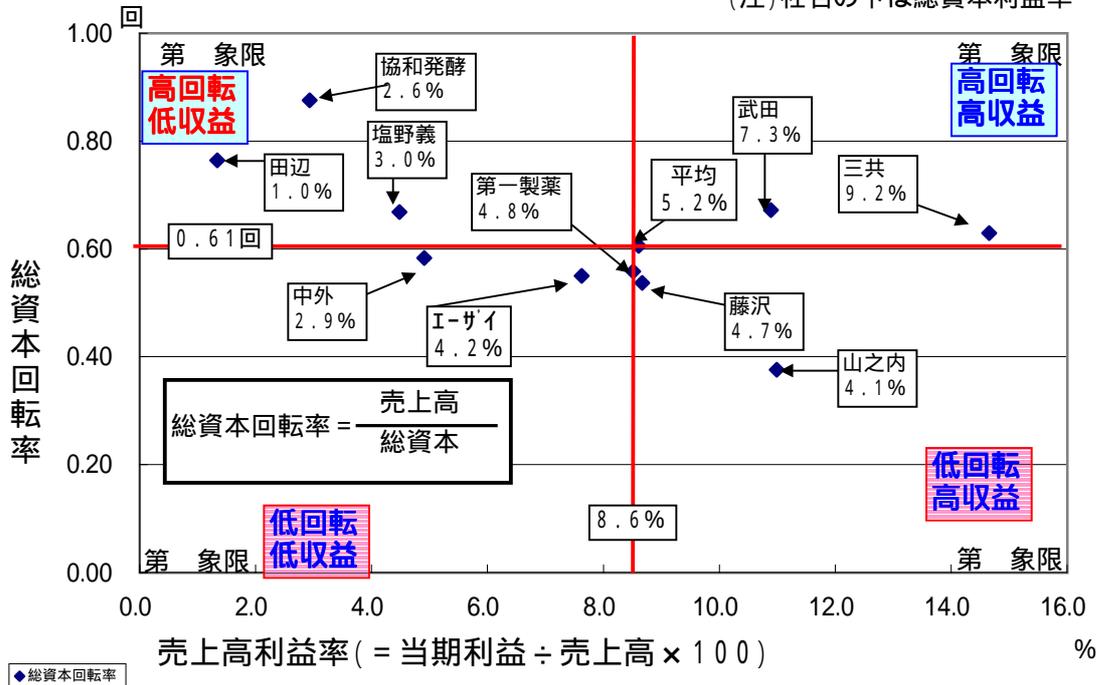
(注) 社名の下は借入金依存度



$$\text{固定長期適合比率} = \frac{\text{固定資産}}{\text{固定負債} + \text{自己資本}} \times 100$$

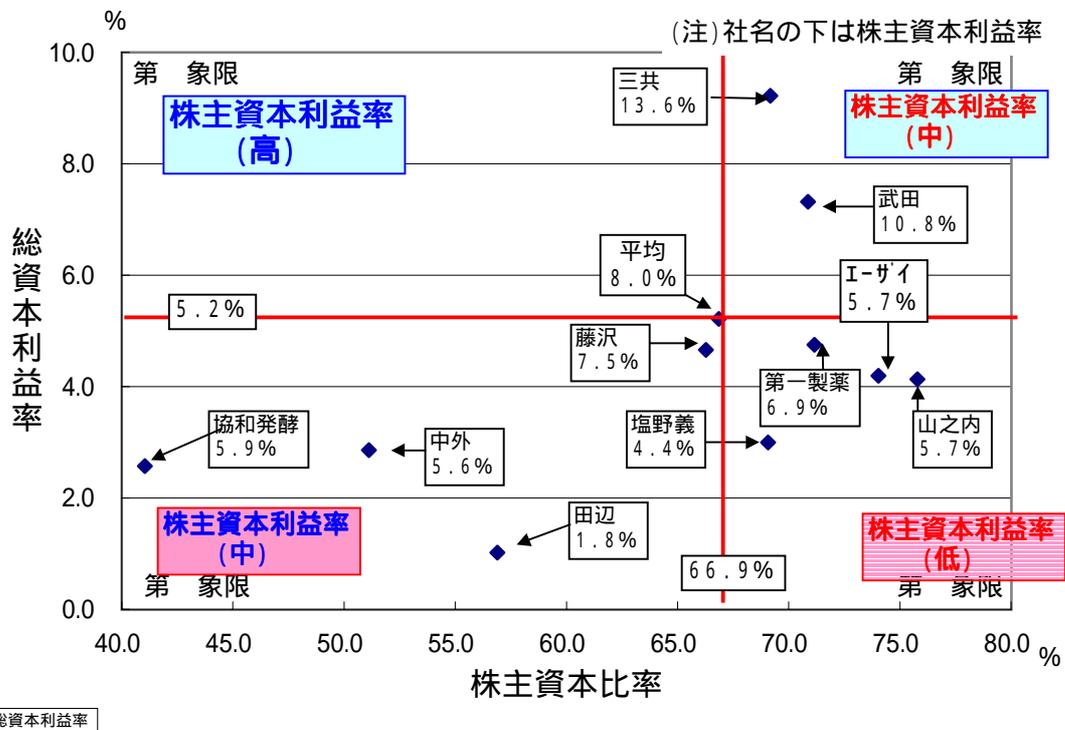
## 経営効率(1) / 総資本利益率 <図11>

(注) 社名の下は総資本利益率



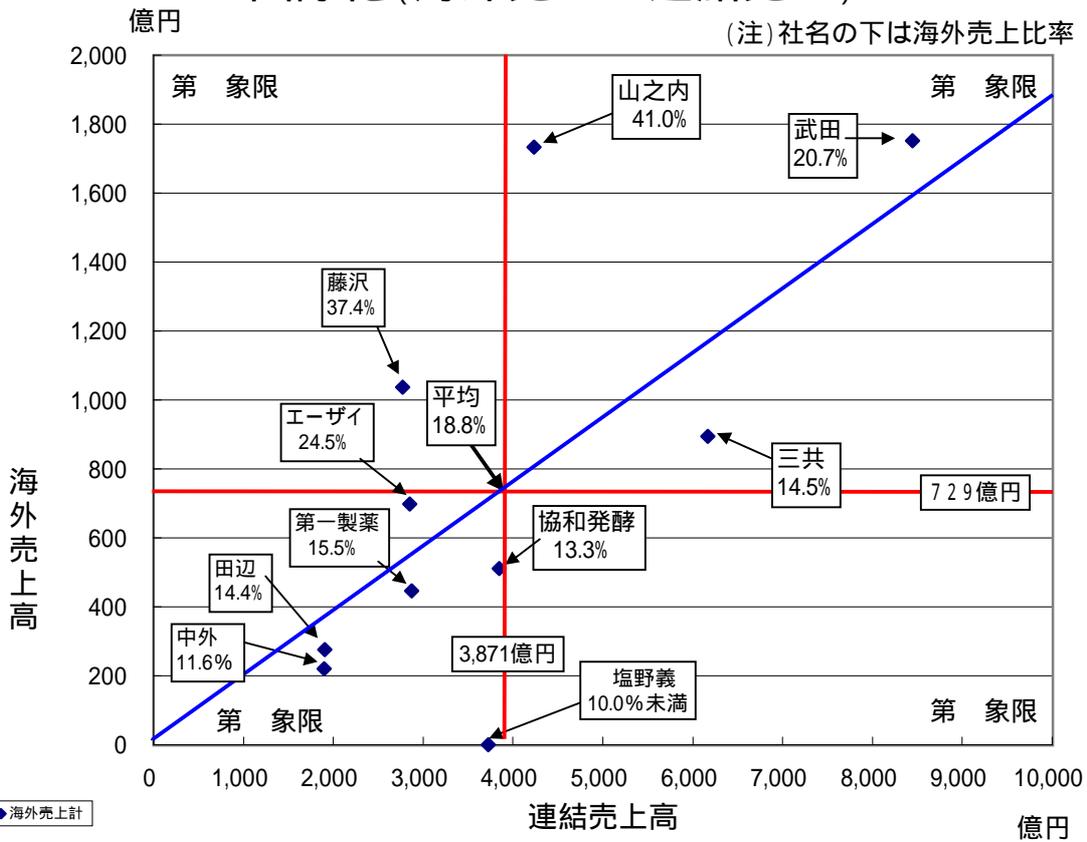
## 経営効率(2) / 株主資本利益率 <図12>

(注) 社名の下は株主資本利益率



# 国際化(海外売上 / 連結売上)

< 図13 >



<http://www.jmari.med.or.jp>